



近年グローバル化の進行はさらに勢いを増しており、日系企業においても海外戦略の加速やそれに伴う英語公用語化などの動きが表面化している。

外資系企業は言うまでもなく、日系企業においても英語力は避けて通れないスキルとなっているのだ。受験英語と実用英語の違いとは？

ビジネス場面で求められる真の英語力とは？

多くのビジネスパーソンに選ばれている英会話教室 Gaba マンツーマン英会話の教材開発課、千浦氏にビジネス社会で求められる英語力について聞いた。

英語の学習時間は多いのに、
上達しにくい日本人

学校教育を通じて多くの時間を費やしているのにも関わらず、日本人は英語に対して苦手意識を持っている。なかでも「スピーキング（会話）」に強い苦手意識を持っている人は非常に多い。Gaba マンツーマン英会話教材開発課の千浦氏はその原因を「インプット式の学習ばかりでアウトプットの練習をしてこなかったから」と指摘する。

「いわゆる受験英語は文法や英単語を正確に暗記して、問題をすばやく解くためのテクニックに重点が置かれています。英語はコミュニケーションツールであるにも関わらず、言葉のキャッチボールを交えて自ら話す『アウトプット』のトレーニング場面が日本人は

明らかに少ないのです」

受験英語は「正解か、不正解か」が重視されるが、実用英語で重要なのは「伝わったか、伝わらなかったか」。もっと声を出して発音し、自分の考えを相手に正確に伝え、TPOに応じて適切な表現を選択するための「実用的な英語」を利用するトレーニングの場がもっと必要なのだという。

好ましいスピーキングとは

それでは、好ましいスピーキングやビジネス英語とはどんなもののだろうか。

「文法的に正確という形式ばったものが好ましいとは言いがたいです。日本語でも同じことがいえませんが、『相手との関係性に合った適切な表現』や『自分ばかりが話すのではなく、相手に質問をしたり共感したりして話題を広げる話し方』が重要といえます」もっと言えば、自分の意図を正確に伝えて相手の意見を正確に理解するためには、自分の考えをしっかり持っている必要があるという。

「会話で重要なのは円滑にコミュニケーションが取れているかどうかであり、そこに評価の軸を設定するとすれば『相手に失礼のない表現をわきまえているか』や『交渉やデリケートな話題の場面で間接的な表現を使えるか』といった点でしょうか」

「英語」単刀直入に意見を言う言葉と認識している方がいるが、厳密に言えばこれは正しくない。英語にもビジネス場面での敬語表現や丁寧な表現は存在し、相手との上下関係や距離感によって適切な表現を選べ

Gabaマンツーマン英会話が提供する 学生向けプランの紹介

PR

夏季限定「短期集中プラン」 7月1日～8月31日までの限定プラン。夏休みを活用して集中的にレッスンを受けたり、英会話スクール未経験の方が試しに受講したり、使い方は様々。レベルに合わせてレッスン内容をカスタマイズできるから短期間でも効率よく学習できます。

内定後も役立つ短編テキスト教材「Recruits」 就職活動にも内定後も、専攻や経験、今後の目標を英語で伝えることができ、ライバルたちに差をつけられるかも。これから直面するシチュエーションをテーマに、すぐにでも使える実践的な学習が行えます。

詳細はGabaホームページをご覧ください <http://www.gaba.co.jp>

なければ円滑なコミュニケーションとはいえない。そのほかにも、業界ごとに専門用語・表現が存在しており、その業界と関わるビジネスパーソンであればこういった言い回しも把握しておきたい。

とはいえ、「世の中でいわれているほど『ビジネス英語』と『日常英語』の違いは大きくない」と千浦氏は言う。「ビジネス上で良い関係を築くためにはフランクな日常会話が不可欠ですし、ビジネスパートナーと家族や趣味の話をするのは珍しいことではありません。それゆえ『ビジネス英語』とひとくくりにせず、ビジネスのための英語学習とらえた方が良いのではないのでしょうか」とのことだ。

スピーキング力の上達のため、「正しい英語」に固執しない

会話は相手があって初めて成立するもの。独学によって総合的なスピーキング力につながるパーツ（語彙、発音、リスニングなど）を習得することは可能だが、最終的な仕上げとして第三者から自身のスピーキング力を評価してもらえない環境は不可欠。インプットした知識をアウトプットし、そこで誤りを指摘されることでより質の高いアウトプットが可能となるのだ。

「そのために欠かさないのは、間違いを恐れずたくさん話すこと。日本人は、「正しい英語」に固執していて間違えることへの不安・恐れが大きく、話すことを邪魔しているように感じます」

実際に世界で繰り広げられている英会話の50%以上はノンネイティブ同士の英会話。彼らは間違いを恐れず、伝えることを優先しており、それを繰り返しているためスピーキングの上達が早い。

「泳げるようになるためにはプールに入って泳いでみるしかないように、英語を話すためにはまず話してみるのがいい」それを根気良く続けることで会話力は着実に向上していくはず。ビジネス環境でも通用する英会話の習得を目指すのであれば、積極的に「会話」をし、それを「評価」してもらえない環境に身を置くことが欠かさないのだ。

（協力：Gabaマンツーマン英会話 教材開発課 千浦氏）

理系ナビキャリアスクール

English Improvement Seminar

～Communication and 1 on 1 Assessment～

「自分の英語は実際に通用するのか？」という不安をお持ちの方のために英会話力チェックセミナー「English Improvement Seminar」を7月、8月（詳細日程は理系ナビに記載）に開催します。

多くのビジネスパーソンから支持されている英会話教室Gabaマンツーマン英会話より英会話講師を招き、参加者のスピーチに対してフィードバックやアドバイスを行います。あなたのスピーキングレベルがどの水準にあるのかを個別に確認できますので、今後のスキルアップの参考にしてください！

セミナーの詳細およびエントリー受付は理系ナビをご覧ください。

<http://www.rikeinavi.com/13/>

第一部 セミナー

1. ビジネス英語について・日常会話との違いなどの説明
2. 英語で自己紹介
3. 自己紹介のフィードバック+スピーキングのポイント解説
※人前で話すとき・プレゼンをするときのコツ、会話＝キャッチボールの重要性、質問+答え+質問、それを円滑にするためのヒントなどを解説予定です。
4. グループごとに会話実践
5. グループ内でのフィードバック

第二部 マンツーマンレッスン

1. セミナーで学んだことを使いテーマを設けて外国人講師と話す
2. アセスメント
3. フィードバック

セミナー告知